

教育実践総合センター平成16年度活動概要

1. 構成員
センター長（併任）
教授 森田 信義
専任教員
教育実践研究開発部門
教授 山下芳樹 助教授 神山貴弥
学校教育相談実践部門
教授 高橋 超 助教授 栗原慎二
客員教員(年度内の3期を分任)
指導主事 利田亨次・林田正彦・戸野香
(いずれも広島県立教育センター)
事務補佐員 関 智子
 2. 主催・共催による公開講演会・シンポジウム・研究会等の活動
 - (1) 教育相談実技研修会
「通常の学級の先生のための特別支援教育」
期日：2004年11月27日
講師：高橋あつ子氏(川崎市総合教育センター)
対象：大学院・学部の学生，教員
参加者数：60名(定員制)
 - (2) 第5回学習科学広島フォーラム
(広島大学大学院教育学研究科学習開発学講座との共催)
「教師のための受容テクニック - 心理カウンセリング専門職からの提言 - 」
期日：2004年12月11日
講師：ビバリー・ハージュ氏
(広島大学教育学研究科客員教授)
対談者：栗原慎二氏
(附属教育実践総合センター)
対象：大学院・学部の学生，教員
参加者数：約70名
 - (3) 教科教育実力錬成講座
期日：2005年2月13日
学生発表
講演「いきいきとした理科の授業を創ろう - 子どものころをくすぐる教材開発・授業研究 - 」
 - 講師：滝川洋二氏
(国際基督教大学附属高等学校教諭)
対象：大学院・学部の学生、現職教員
参加者数：約80名
 - (4) 教育相談実技研修会
「やってみようアサーション」
期日：2005年2月19日
講師：鈴木教夫氏
(埼玉県春日部市立武里小学校)
対象：大学院・学部の学生，教員
参加者数：50名(定員制)
 - (5) 第3回保幼小連携フォーラム
兼第6回学習科学広島フォーラム
(広島大学大学院教育学研究科附属幼年教育研究施設および学習開発学講座との共催)
「ニュージーランドと日本の幼小連携の現状と課題」
期日：2005年2月26日
話題提供者：J.ダンカン氏
(ニュージーランド・オタゴ大学)
住野好久氏(岡山大学教育学部)
指定討論者：井上 弥氏
(広島大学大学院教育学研究科)
対象：一般(保育士・幼稚園教諭、小学校教諭)
参加者数：約75名
3. センター専任教員による学外講演等の活動
生徒指導・教育相談・幼小中連携などに関する講演、およびそれらに関する演習の指導
期間：通年(76回)
対象：主に教員
対象人数：約4100名
 4. 研究プロジェクト
 - (1) 科研費研究「我が国の自然科学教育の原点を東奥義塾の教育実践に探る萌芽的研究」
 - (2) 科研費研究「少子化社会における学校での新課題「異校種間交流」の教育効果を探る」
 - (3) 学長裁量経費による研究(研究代表者)「到達目標型教育プログラムにおける到達度測定方

- 法の開発 - 教育学部教育プログラムをモデルとした実証的研究 - 」
- (4) 研究科長裁量経費による研究（研究代表者）
「オープンクラスター制度導入による地域連携に関する実証的研究」
 - (5) 研究科長裁量経費による研究（研究分担者）
「学習指導の改善充実に関する研究」
 - (6) 広島県立教育センターとの共同研究「現職教員の生徒指導・教育相談の力量形成のための研修プログラムに関する研究」
 - (7) 広島県立教育センターとの共同研究「不登校の未然防止・早期対応に向けた学校づくりに関する研究」
 - (8) 文部科学省指定「人権教育総合推進事業」：
広島市立二葉中学校とその学区内4小学校との共同研究「中学校におけるピア・サポートの教育実践的研究」
 - (9) センター・プロジェクト研究「臨床的な指導力育成のための初等教員養成カリキュラムの開発に関する基礎的研究」
 - (10) 広島大学学部・附属学校共同研究推進費による研究（研究分担者）「附属学校園と地域社会における教育連携に関する研究(3)」
 - (11) 広島大学学部・附属学校共同研究推進費による研究（研究分担者）「広島大学における「特色ある教育実習プログラム」の構築に向けて」
 - (12) 広島大学学部・附属学校共同研究推進費による研究（研究分担者）「一貫教育における小中教員の研究に対する意識差に関する研究」
 - (14) 附属東雲中学校との共同研究（研究分担者）
「明日を担う生徒を育てる学校教育の創造を課題とする研究」「総合的な学習における表現・コミュニケーション力の育成と評価に関する研究」
 - (15) 附属三原学園との共同研究（研究分担者）
「21世紀型学力を育成する一貫教育研究プロジェクトの評価と課題について」

5. 教育事業

- (1) 学校コンサルテーション活動
公立学校の教員および児童・生徒の保護者を対象として、生徒指導・教育相談に関するコンサルテーションを行った。通年で24回、延べ40名を対象として実施した。
- (2) 地域教育実践ボランティアネットワーク事業
本事業は、「教師に必要な幅広い社会的視野と

実践的指導力の育成」および「市民としての自覚形成と街づくりへの参画」を目的として、学校や各種施設等からの学生ボランティア派遣の要請にこたえ、希望する学生を募集し、派遣する制度である。本年度は、12件の派遣要請を受け、延べ60名の学生を派遣した。

- (3) 放課後学習チューター派遣事業（東広島市教育委員会との連携事業）

生徒の学習上のつまずきの解消や学習意欲の向上を図ることを目的に、東広島市内の3中学校で実施される取り組みに、大学生を放課後学習チューターとして派遣した。派遣した教員志望の学生の教員としての資質向上を図る目的もある。期間は2004年6月～2005年3月までで、80名の学生を派遣した。

- (4) フレンドシップ事業「ゆかいな土曜日」

本学部では教育実践総合センターの教員をはじめ学内委員11名から成るフレンドシップ事業実行委員会を組織し、その運営にあたっている。

活動の趣旨 「教員養成学部の学生が、地域の小学校に在学する児童および住民の方たちと共に自然体験・勤労体験などの直接体験活動を行うことにより、教師として豊かな資質を養うと同時に児童の生きる力を育て、地域の人々と児童、学生の交流を深める」ことを趣旨とし、平成9年度より活動を開始して、16年度は8年目である。

活動の形態 16年度は「地域教育実践」の授業として通年で開講した。

実施内容 1) 活動は、H16.4 から H17.1 にかけて、月例活動9回、大学内シンポジウム1回を行った。月例活動の時間帯は、午前9時から午後4時。2) 参加学生は、受講学生と単位を必要としないボランティア学生を含め約100名。児童は東広島市立小学校20校から募集した120名。地域の協力者は、東広島市下見地区を中心とする20名。3) 児童10名と学生6名で1班とし、12班を編成し、達人(4班)、遊び(4班)、四季(4班)の3グループに分けてグループ活動や、畑での栽培活動や餅つきなどの全体活動を行った。

6. 研究紀要の刊行

学校教育実践学研究（第11巻）の刊行